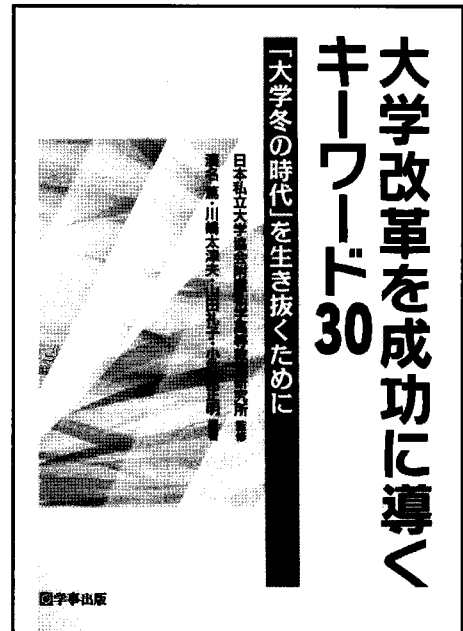


<会員による自著紹介>

大学改革を成功に導くキーワード 30 —「大学冬の時代」を生き抜くために—

濱名 篤・川嶋太津夫・
山田礼子・小笠原正明(編著)

学事出版(2013年発行)
定価 2,400円(税別)



本書の「はじめに」では、出版の趣旨について、「平成20年の中教審答申『学士課程教育の構築に向けて』を経、更に2012年の『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』の答申が出されるに及んで、大学改革の流れは、おそらく戦後初めてといってもよい、全面的な“質の時代”に入ったように思われます。」と記し、そうした質の時代の中で、政策主導で提唱された改革課題に日本の高等教育機関が迅速に実践することが求められていると説明している。

実際に、平成20年以来、示されてきた多くの大学がクリアしなければならない「改革課題」は数多く、目まぐるしくその内容が付け加えられていることから、専門的にこの改革課題をウォッチしている専門家はいざしらず、大学の学長をはじめとする執行部あるいは改革を実践していくべき担当者が改革課題をどう理解し、どう課題をクリアし、かつ実践していくかは容易ではない。

平成24年の答申は改革の方向性を示しているが、そうした方向性をしっかりと認識し、実施していくためには、本答申で示されている概念を明確化し、改革課題への共通理解を促すことが求められている。

本書は、平成24年の答申の内容に関連して、特に重要であると位置づけられる学士課程教育の改革に関連する30のキーワードを選定し、執筆者の論考をまとめている。三つの章にわかれており、第1章は、「全学レベル・高等教育政策にかかわる10のキーワード」、第2章は「学位プログラムレベル(学部・学科レベル)にかかわる10のキーワード」、第3章は「教員レベルにかかわる10のキーワード」から構成されている。各章では、カタカナ語の多い改革課題を平易に解説するだけでなく、2~3のポイントを提言としてあげている。ぜひ、実質のある改革を実践していく上で、本書を役立てていただけることを執筆者一同願っている。